

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 1 3	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
<p>C-reactive protein and alcohol consumption: Is there a U-shaped association? Results from a population-based study in Russia. The Arkhangelsk study.</p> <p>CRP とアルコール消費量：U字型の関連はあるか。ロシア、アルカンゲルスク研究住民調査結果より。</p>	
執筆者	
Averina M, Nilssen O, Arkhipovsky VL, Kalinin AG, Brox J.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Atherosclerosis. 2006 Oct;188(2):309-15.	
キーワード	
CRP, アルコール、肥満度、ロシア	
要 旨	
<p>目的： 多量飲酒が多いロシアにおいて、炎症性マーカーとアルコール消費との関連についてはよく知られていない。</p> <p>方法： 18-90歳の住民断面調査であり、男性 1963 人、女性 1734 人が調査に参加した。CRP 測定は高感度法にて実施された。</p> <p>結果： アルコール摂取量は、1 回の機会にウオッカを多量に飲むことと関連していた。CRP とアルコール摂取量の U字型の関連は、禁酒者における高い CRP と関連していた。禁酒者は男女とも高齢であり、もともと飲酒しない人よりも多くの疾病を有していた。この U字型の関連は、年齢、BMI、喫煙、糖尿病、循環器疾患治療中等を調整すると、有意ではなくなった。 分析を飲酒者のみで実施した場合、男女とも、CRP は週当たりのアルコール摂取量と週当たりのウオッカ摂取量と正の関連を示した。</p> <p>結論： CRP と飲酒量の U字型の関連は、禁酒者の高い CRP によるものであった。現在の飲酒量以外の要因が高い CRP と関連していると考えられた。禁酒者、非飲酒者を除いて分析した場合、飲酒と CRP の正の関連を認め、飲酒の炎症惹起性効果を認めた。</p>	